

平成 27 年度 地球環境基金助成事業・県民の環境活動支援事業

ちば里山カレッジ「次世代リーダー養成コース」実施報告書 (5)

特定非営利活動法人ちば里山センター

題名	ちば里山カレッジ「次世代リーダー養成コース」 第 5 回講義&ワークショップ 「活動資金調達と組織運営」
日時	平成 27 年 12 月 19 日 (土) 9:10~16:00
講師	講義:「活動資金調達と組織運営」 講師:特定非営利法人 千葉自然学校 理事 遠藤 陽子 講師:特定非営利法人 手賀沼森友会 事務局長 松清 智洋 講義:「活動助成金について」 講師:一般財団法人 千葉県環境財団 業務部環境活動支援課 顧問 柴崎 郁夫 講師:公益財団法人 三菱 UFJ 環境財団 事務局部長 依田 浩人 講義&ワークショップ:「活動資金調達と組織運営」 講師:特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ 代表理事 牧野 昌子 副代表理事 勝又 恵理子
会場	千葉市ビジネス支援センター 多目的室
出席者	受講生 51 名 (欠席 7 名)・主催者 2 名・スタッフ 1 名
報告	9:10~10:50 講義:「活動資金調達と組織運営」 千葉自然学校は平成 23 年度の収支決算総額 3 億 5 千万円超の事業体。主な財源は事業に加え、助成金、補助金を活用した受託事業を行っている。今後の課題は助成金・補助金に頼らない事業による収入をもとに、若いスタッフを月給制で雇用できる仕組みを構築することが目下の課題。 手賀沼森友会は組織立ち上げにかかる市との調整、資金調達方法、運営の継続性について、実例を織り込み、詳細に示していただいた。「担い手を第一に」、「理念共有」、「世代交代を見据える」、「無理しない」といった標語は新鮮なイメージで受け止めることができた。 11:00~12:10 講義:「活動助成金について」 千葉県環境財団の柴崎氏は、助成金申請の際に、立場を変えてみると申請から交付までのストーリーが見えてくる話を展開した。活動資金がないのは申請の理由にはならない。環境が良くなる活動を申請の理由として主張できるようにしてほしいと訴えた。 三菱 UFJ 環境財団は環境保全整備事業の一環として里山保全を支援。全国 6 カ所で活動を支援する。ほかに環境教育事業や体験活動事業を行っている。公募しない助成なので皆さんからの情報をお待ちしていると結んだ。 13:00~16:00 講義&ワークショップ:「活動資金調達と組織運営」 ちば市民活動・市民事業サポートクラブの牧野講師は組織の立ち上げから人材募集、運営の子細な手順についてご講義いただいた。ワークショップでは 5~6 人のグループに分かれて活動計画をつくるワークショップを行った。団体名から解決課題、活動内容、メンバー募集、広報といった具体的な計画策定だった。グループごとに発表、意見を戦わせていた。 受講生はワークショップを真剣なシミュレーションとして受け止めていたようだ。

添付資料（写真）



遠藤陽子講師



松清智洋講師



柴崎郁夫講師



依田浩人講師



ファンドの話に質問が飛ぶ



牧野昌子講師



勝又恵理子講師



グループに分かれて討議



どんな計画でしょうか？



計画はまとまったかな？



組織の活動計画発表



子ども遊べる空間づくりなど



ちょっとアドバイス



竹林の整備計画も